

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



2面

「ノウフク・アワード」で
チャレンジ賞
(耕種資材部)

3面

学校給食や量販店で
富山米「富富富」PR
(富山県本部)

配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



<https://forms.office.com/r/yUWVHyVVtK>

全農 ZEN-NOH

食と農を未来へつなぐ。

News!



「ノウフク・アワード」でチャレンジ賞

障がい者らの社会参画や地域農業の維持・発展に貢献

耕種資材部



(上)表彰式での集合写真
(下)チャレンジ賞を受賞



「ゆめファーム全農運営マニユアル」に取り込み、この仕組みを大規模施設園芸における運営マニユアル(ゆめファーム全農運営マニユアル)に取り込み、

誰でも働ける環境を構築し、安定的な労働と就業機会を拡大しました。このことが「新たな農福連携等に取り組んでいる団体等」と認められ、今回の受賞となりました。

今後「ゆめファーム全農」や26年秋に新設される「ゆめファーム全農トレーニンングセンター幸手」を通じて、農作業への障がい者の参画を積極的に推進し、農業分野における多様な人材の活躍を支援していきます。

「耕種資材部 施設園芸企画課・ゆめファーム全農こうち」で農福連携に取り組み、2025年7月にノウフクJASの認証を取得しました。

全農は、農福連携等応援コンソーシアム(事務局＝農水省)が主催する「ノウフク・アワード2025」において「チャレンジ賞」を受賞しました。表彰式は1月28日に東京都江東区で行われました。

News!



全農・農中が地方メディアと意見交換会

共同通信社加盟社計39社43人が参加

広報・調査部



全農・尾本専務と農中・尾崎専務による開会あいさつ



参加者同士で自由に意見交換を行いました

冒頭、全農の尾本英樹専務と農林中央金庫(以下、農中)の尾崎太郎専務が開会あいさつ。第一部では、「全農営業開発部の取組み」「農中の取組み」「全農・農中の連携事例(JA営農経済事業支援の取組み、アグベンチャーラボの取組み)」を説明し、グループ事業への理解を広げました。

第二部では立食形式の懇談会とし、参加者と役員が自由に意見交換を行い、和やかな雰囲気の中で交流を深めました。食事

全農と農中は今後メディアとのコミュニケーションを大切にし、JAグループに関する理解が一層深まるよう取り組みを進めていきます。

メニューには、全農が鹿児島県産黒毛和牛「鹿児島県産牛」と山形県産米「雪若丸」を提供、農中が鹿児島県産「カンパチ」を提供し、それぞれの素材を生かした料理を振る舞いました。参加者と役員の交流も深まり、実りある会合となりました。

全農と農林中央金庫は2月2日、地方メディアの方々にJAグループ事業への理解を深めてもらうことを目的に、東京都中央区のロイヤルパークホテルで(株)共同通信社に加盟している各地方紙東京支社と全農・農中の役員による意見交換会を合同で開催しました。



学校給食や量販店で富山米「富富富」PR

高校生が特別授業や対面販売会を実施

富山県本部

富山県本部は、富山米「富富富」を栽培する高校生の取り組みを通じて、富山県の農業や「富富富」の魅力をPRするため、2月22日の「富富富の日」に合わせ、小学校での特別授業や量販店での販売会を実施しました。

富山県立入善高校と富山県立南砺福野高校では、農業教育の一環として「富富富」を栽培しています。

入善町では2月の1か月間、入善高校の生徒が育てた「富富富」が学校給食に使用されました。13日には「富富富」の栽培に携わった生徒らが、入善小学校の5年生に特別授業を実施。「富富富」の特徴や栽培方法についてクイズやドローンで撮影した動画を交えながら紹介しました。授業後には小学校の全校児童約240人と給食を楽しみました。「富富富の日」の22日には、富山県と連携して県内の量販店で南砺福野高校の生徒が育てた「富富富」を販売しました。販売会では栽培に携わった生徒らが店頭に立ち、消費者へ「富富富」をPRし、試食としておにぎり計300個を配布しました。



入善小学校で「富富富」を紹介する入善高校の生徒



自らが育てた「富富富」をPRする南砺福野高校の生徒



新聞に米の生産・流通に関する広告掲載

「おいしいごはんが食卓に届くまで」の道のりを紹介!!

米穀部

全農は、米の生産・流通に関する消費者の理解を広げることを目的とした広告を、2月28日の読売新聞と日本農業新聞に掲載しました。

2024年の夏以降、米不足や米価格の高騰、政府備蓄米の放出など、各メディアでの報道により消費者の米への関心が高まる中、全農は記者説明会や有識者懇話会を開催して、米に関わる正確な情報発信に継続的に取り組んでいます。

日々の手間や努力、流通・販売に携わる多くの関係者の支えがあることを、イラストとともに分かりやすく紹介しています。

このような広告掲出を通じて、米づくりや流通にかかわる工程を紹介し、おいしいご飯が食卓に届くまでの背景を消費者に伝えることで、生産・流通への理解を広げていきます。なお、掲載した広告は、ポスターにして全国で活用予定です。全農は、今後も持続可能な米生産への理解醸成や米の魅力発信、消費拡大に向けた活動を積極的に進めていきます。



「おいしいごはんが食卓に届くまで」広告

全農は、今後も持続可能な米生産への理解醸成や米の魅力発信、消費拡大に向けた活動を積極的に進めていきます。

News!



環境配慮でつなぐ産地と生協

JAふくおか八女のキウイフルーツの取り組み紹介

耕種総合対策部



(右) 同封したリーフレット
(左) JAふくおか八女のキウイフルーツ



環境に配慮した農業の実現には、生産者だけでなく流通業者や消費者の理解が欠かせません。そこで、JA全農青果センターの協力で産地の取り組みを「見える化」して伝える活動を進めました。

JAふくおか八女では糖度確認や追熟管理、温度

生産・流通・消費の各関係者が連携し、産地の環境配慮の取り組みを「見える化」する活動が進んでいます。全農はJA全農青果センター(株)の協力のもと、JAふくおか八女のキウイフルーツにリーフレットを同封し、「安心食品」の宅配に取り組み生活クラブの組合員に、生産現場の工夫について情報発信しました。

管理を徹底し、農薬や肥料も適正に使うことで環境負荷の低減に努めています。

今回、同JAのキウイフルーツを注文した組合員にリーフレットを説明したリーフレットを、直接届けました。生活クラブの鶴澤理事は「背景を知ることによってある選択につながる」と話し、同JAキウイフルーツ部会の原部会長は「努力を知っていただけることが励みになる」と期待を寄せています。

今後も、生産から販売まで各者が連携する中で、産地の思いが消費者へ届く取り組みを進めていきます。

※リーフレットの配布は既に終了している可能性があります。

News!



「ニッポンの食」で高校生カーラー応援

第21回全農全国高等学校カーリング選手権大会を開催

広報・調査部



全国から高校生カーラーが一堂に集結

JA全農は1月22～25日、青森市のオカでんアリーナで開催された「第21回全農全国高等学校カーリング選手権大会」に特別協賛しました。

全国から男女合わせて合計10チーム41人の高校生が集結し、全24試合の熱戦が繰り広げられました。男子は長野選抜、女子は北海道選抜が優勝を飾りました。

表彰式では全農から入賞チームへ、副賞として青森県産米「青天の霹靂」「はれわたたり」と「あおもり倉石牛サーロインステーキ」を贈呈しました。

JA全農は1月22～25日、青森市のオカでんアリーナで開催された「第21回全農全国高等学校カーリング選手権大会」に特別協賛しました。



選手控室にもぐもぐブースを設置

試合前後やハーフタイム中には、栄養補給のために選手控室にもぐもぐブースを設置し、青森県産米を使用したおむすびや、カットりんご、全農ブランド商品などの食材を提供しました。

決勝戦はYouTubeでアーカイブ配信しています。高校生カーラーの熱戦をぜひご覧ください。全農はこれからも「ニッポンの食」でアスリートの健康づくりやスポーツ選手の育成をサポートしていきます。

新鮮で旬の食材を品ぞろえ 生産者と消費者結ぶ直売所

JA鳥取西部は、中国地方の秀峰「大山」や日本海などに囲まれた鳥取県西部をエリアとしています。平地や砂丘地、中山間地など変化に富んだ地形と豊かな自然環境を生かして、米や野菜、果実、和牛など多彩な農畜産業を展開しています。

年間60万人が来店 地域の人気スポット

日吉津村のJA鳥取西部「ふれあい村アスパル」は、新鮮で安全・安心な地元の特産物が集まる、地域に根差した人気の農産物直売所です。2002年3月29日のオープン以来、地域に親しまれ、現在は年間約60万人が来店しています。県内外の観光客も立ち寄る人気スポットで、オン

ラインショップを通じて管内の特産物を全国に情報発信もしています。2007年以降は年間販売額が10億円を超え、2025年12月9日には累計来店者数1500万人を達成して記念セレモニーを開きました。



アスパルの来店客 1500 万人達成記念セレモニー

アスパルの魅力は何といても地元生産者が毎日出荷する新鮮な旬の食材で、鳥取県西部の豊かな自然が育んだ特産物などは、多くのファンを獲得しています。

来店者の声を反映 港直送の鮮魚売り場

店内では、米や精肉、花、手作り加工品など豊富な品ぞろえで、野菜や花などの苗売り場は中国地方最大級の規模を誇ります。お客さまの声を反映し、境港直送の鮮魚売り場を設置するなど、サービスの向上に努めています。また、創業祭や季節のイベントを通じて、旬の農産物PRや生産者と消費者とのふれあい交流の場作りにも力を入れています。

JA鳥取西部 (鳥取県)



(右) 店内には新鮮で安全・安心な地元特産物が並ぶ
(左) 出荷会員が出荷する新鮮で安全・安心な地元特産物

今後も地元生産者の情熱や消費者の信頼に応え、「生産者と消費者をつなぐ架け橋」として、地域に愛される魅力的な直売所づくりに取り組んでいきます。



生産者と消費者をつなぐ直売所「ふれあい村アスパル」



創業祭などイベントを通じて来店客とのふれあい交流

概要	2026年1月31日現在
正組合員数	1万2756人
准組合員数	1万2416人
職員数	522人
販売品取扱高	89億3千万円
購買品取扱高	64億1千万円
貯金残高	2082億1千万円
長期共済保有高	4904億2千万円
主な農畜産物	水稲、白ネギ、ブロッコリー、トマト、ニンジン、花き類、梨、柿、和牛 など

日系移住地トメアスに学ぶ 持続可能な農業モデル

熊本県南阿蘇村で家族と稲作とあか牛の繁殖をしている「農家の嫁」、大津愛梨さんが、昨年11月にアマゾン（ブラジル）で開催された国際会議に参加後、アマゾンのアグロフォレストリーを見学した時のレポートです。今回は農村視察編（第一報は2月9日号）。



日本の「道の駅」を参考に作られた直売所

COP30（国連気候変動枠組条約の締約国会議）に参加するためにブラジルまで行ったレポートの続きです。「せっかく地球の裏側まで行ったのだから、農家のはしくれとしては農業の現場も見てみたい！」と思い、農村視察を決定しました。

コショウ単一栽培から 混植農法に移行し活気

COP30の会場となったペ

レン（州都）から車で3時間弱（180^キ）のところにあるトメアスという田舎町へ。日系人の移住地として有名で、現在

も多くの日系人が暮らしています。2泊3日の滞在中、ずっと日本語で過ごしていたので、一体どこにいるのか分からなくなりそうでした。

1950年代には世界的なコショウ産地として大発展を遂げたトメアスですが、60年代後半にコショウがほぼ全滅。その反省から単一栽培（モノカルチャー）をやめ、コショウ、カカオ、アサイー、コーヒーなど数種類の樹木を混植する農法へ移行しました。これが「アグロフォレストリー」と名付けられ、持続可能な農業モデルとして世界的に注目されているのです。

選果・加工施設が充実 アサイーなど加工出荷

行く前に文献やインターネット



トメアス農協の組合長ご夫妻と皆さま（右から3人目が大津さん）

トでは調べたものの、やはり「百聞は一見にしかず」。このレポートを読んで興味を持たれた方がいらつしやれば、ぜひ実際に訪ねていただきたいです！

何が違うって、まずは風。そして匂い。人との縁。「アマゾンのアグロフォレストリー」と聞くと、熱帯雨林や密林を想像しますが、実際には家屋と隣接する農場（果樹園）が広がる開けた農村地帯。林内に足を

踏み入れた途端、スッと涼しくなりました。アマゾンは11月でも30度を超える暑さだったので、さまざまな高さや種類の木々が植えられているおかげで、心地いい風が吹いているのです。最近、日本でも人気が出てきたアサイー（カフェなどでフルーツをあしらったアサイーボウルとして人気）はヤシ科の植物。高さ5〜20mにもなる木の上に実をつけ、その果実は



混植しているアグロフォレストリー



アサイーの実

年間を通して収穫できます。JICA（国際協力機構）の支援を受けた日系の農協は立派な選果・加工場を持っており、アサイーをペースト状に加工して国内外に出荷しています。

す。モノカルチャーではないことで生物多様性の保全ができる地球に優しい農法ですが、「日陰で作業できる」ため、労働環境としても優しい農法だと感じました。

観光や加工品の開発も意欲あふれる農家女性

アグロフォレストリー農法によつて通年出荷が可能になった上、加工まで手掛けているため、トメアスの農協は業績が近年右肩上がりとのこと。そのため、後継者問題もあまりないと、組合長のオツパタさんがおっしゃっていました。

彼の娘さんは20代の農業女子！ 親元就農をする時に補助金を活用して導入したトラクターにも乗らせてもらいました。これからはツーリズムも手



アサイーをコンテナで出荷



トラクターにも乗せてもらいました



トメアス農協の皆さまへ、石川佳純カレーと農協ごはんをお渡ししました

掛けたいと目をキラキラさせて語っている横で、私と同年代の組合長夫人は、女性農業者の仲間たち（いわゆる農協の婦人部）と共に、小さな加工場で自分たちの手でチョコレートを作るプロジェクトを始めたこと、同じく目がキラキラ。

他にも、婦人部の皆さんが日本に来た時に視察した「道の駅」を自ら開設した施設を見学したり、トメアス市の市長さんや議員さんに会ったり、移民1世の方のお話を聞いたり、移民資料館にお邪魔したりと、この誌面では到底ご紹介し

きれないほどの体験をした2日間でした。

特に印象的だったのは、とにかく皆さんが明るくてエネルギーが溢れること。朝7時から視察が始まり、夜は懇親会まで開いてくださり、一緒に渡伯していた半農半歌手のYaeさんが歌うと、「次はカラオケに行きましょう！」とのお誘い。勢いでついていったら、なんと深夜過ぎまで盛り上がり、まさかアマゾンでカラオケに行くとは思っていませんでしたが、楽しい農業者交流となりました。

栃木県産「とちあいか」で新商品



JR東日本グループと「ニッポンエール」が連携



栃木県産
とちあいか
苺

全農は、(株)JR東日本クロスステーションウォータービジネスカンパニーのオリジナル飲料ブランド「acure made」と「ニッポンエール」のWブランド商品として、「栃木県産とちあいか 苺」を共同開発しました。3月3日からJR東日本のエキナカにある「アキュアの自販機」や「NewDays」「NewDays KIOSK」で発売しています。 【営業開発部】

「栃木県産とちあいか 苺」は、栃木県産イチゴ「とちあいか」の果汁を使用しています。

「とちあいか」は飲料にも適した品種であり、程よい酸味と際立つ甘さ、すっきりとした後味が特徴です。

またこの商品は、生育から収穫時に発生してしまう傷や色むら、不ぞろいな形など、生果として流通に適さないイチゴを中心に活用し食品ロス削減につなげています。

全農は、国産農畜産物の消費拡大や生産振興に向けて、今後も「ニッポンエール」の取り組みを全国の産地・品目に拡大していきます。

イチゴ主産地9県が合同販促フェア

「ブランド」の食べ比べアソートケースを販売

イチゴの主産地9県(宮城、茨城、栃木、静岡、愛知、福岡、佐賀、長崎、熊本)の県連・県JA・全農で構成する「いちご主産県情報交換会」(事務局=園芸部)は2月7日、澤光青果、東京青果の協力で、澤光青果2店舗で「2026年いちご主産9県合同物販フェア」を開催しました。 【園芸部】

同情報交換会は、国産イチゴが潤沢に出回る時期に合同で販促イベントを実施しています。

今回は「もういっこ」「にこにこベリー」「とちあいか」「とちおとめ」「紅ほっぺ」「愛きらり」「博多あまおう」「いちごさん」「ゆめのか」「ゆうべに」「恋みのり」の11種類のブランドイチゴが登場しました。

いろいろな種類を楽しんでもらおうと、ランダムに4パックを詰め合わせて販売しました。店頭では各県の販売担当がイチゴの特徴を説明し、国産イチゴの魅力をアピールしました。



多くの人でにぎわう物販フェア

JA全農の産地直送通販サイト JAタウン ショップ紹介



いいものいっぱい広場

茨城県産「惚れ2(ほれぼれ) とまと」をたっぷり使った、食塩無添加のストレートトマトジュースです。真っ赤に熟したトマトをそのまま搾汁し、濃厚な味わいとすっきりとした飲みやすさを両立しました。

茨城県産トマトだけを使用した産地限定商品で、濃さ・酸味・甘みのバランスも絶妙。朝食やおやつに加えるだけで、手軽に野菜のおいしさを楽しめます。

トマトは強力な抗酸化作用を持つリコピンやカリウム、GABAを豊富に含み、生活習慣病の予防や美肌の強い味方。毎日の健康&美肌習慣に、茨城の太陽の恵みを浴びたトマトジュースをお楽しみください。

惚れ2(ほれぼれ) とまとのトマトジュース
食塩無添加
160g×30本入り
…4180円(税込み)



ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

